

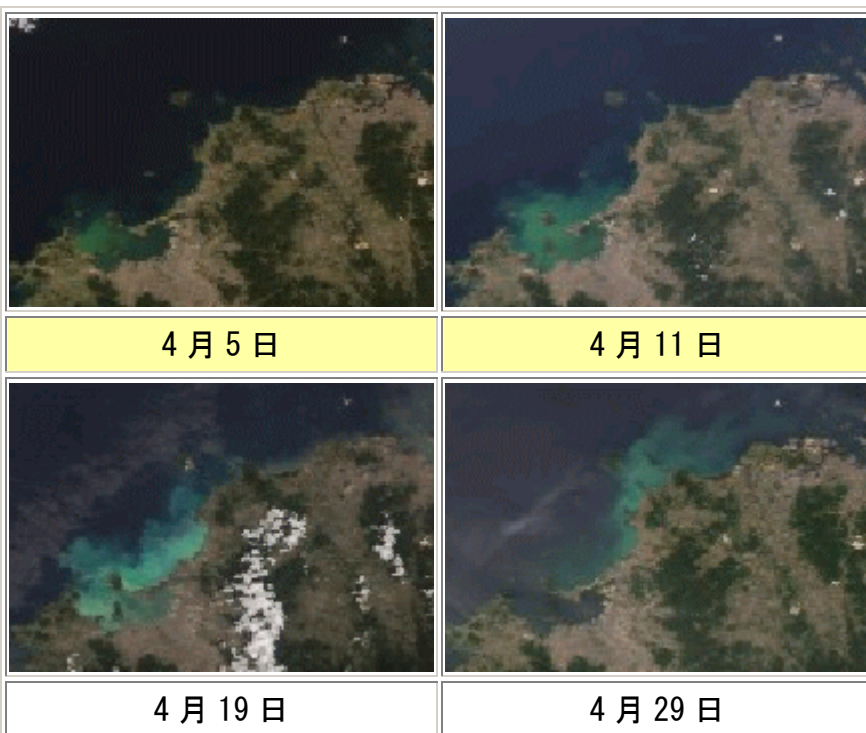
海の色が鮮やかなコバルトブルーに・・・

ある日、海の色が変だとの情報が寄せられた。

探偵事務所の窓から眺めても色も鮮やかで、まるで、沖縄のリゾート地のような。



米国地球観測衛星 TERRA, AQUA 搭載の光学センサーMODIS の写真を見ても、博多湾の色が変わっている。



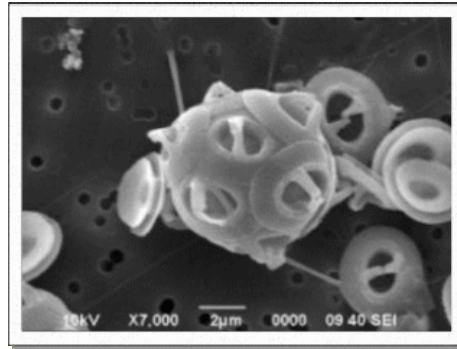
そこで、探偵の出番だ。

あわてて、海へ水を汲みに行くのだった。

汲んできた海水を電子顕微鏡で観察してみると



電子顕微鏡



おお～
見えるぞ～
なんじゃ、
これは??

海水の中にはたくさんのプランクトン (*Gephyrocapsa oceanica*) が見られた。

Gephyrocapsa oceanica は直径 6～15 μm の植物プランクトンで、細胞の外壁を炭酸カルシウムでできた円石と呼ばれる白色の鱗片で覆われており、光が円石に反射することで、海水が変色したものである。

Gephyrocapsa oceanica の仲間の円石藻は、中生代、ジュラ紀後期から白亜紀にかけて (1.5 億年前から 6500 万年前) の海には大発生していたらしく、イギリスのドーバー海峡周辺にみられる白い崖は、その化石だそう。

このあと、この海の変色は、白潮としてマスコミ等に大きく取り上げられることになるのであった。